



KAGAYAKU

# かがやく

題字:木版  
西野一男さん

30

生涯学習情報紙:生きがい探しのパートナー  
感動人生! ここに生きる元気な人間びと



▶発表会で活躍する  
祐花さん



▶右から  
渡辺会長、  
お母さん、  
祐花さん

▼演奏の前後



▶カッコいい  
祐花さん



▲右から  
松坂萌那さん、森山先生、水上綺音さん



## 「入間華太鼓」で活躍する 山口祐花さん (狭山台) 母と娘が結ぶ心のハーモニー

市の大きな行事に華を添え、見物客の皆さんを楽しませてくれるものの一つに太鼓の演技があります。入間市には太鼓を演奏する団体が多数あり「入間華太鼓」もその中のひとつです。

祐花さんは小学校三年生の時にお母さんが所属する「入間華太鼓」に入会しました。

お母さんの話では「私の練習やイベント会場に連れて行っても、太鼓にはあまり興味なさそうな様子でしたが、自分から太鼓をやってみたくて入会しました。熱心に練習するようになり、だんだん音の響きや振り・演技にも興味を持つようになってきたようです」とのこと。

太鼓を一生懸命にやろうと思ったのはどうしてとの質問に「お母さんは格好いいし、お母さんのように上手になりたいから。でもだんだん振りもリズムも難しくなってきた」と笑顔で答える祐花さん。

「祐花ちゃんがメンバーになってからは、他のメンバーの笑い声も大きくなったような気がします。小学生は覚えが早いので先が楽しみです」と渡辺会長は話していました。

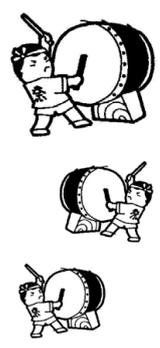
「入間華太鼓」は昨年、創立二十

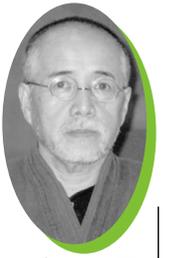
万燈まつり等、周年を迎えた歴史ある団体ですが、祐花さんが入会するまでは子ども会員は一人もいませんでした。しかしその後は、同じ三年生の水上綺音さんと松坂萌那さんが加わり、三人のかわいいメンバーが揃いました。

「入間華太鼓」は万燈まつりや太鼓セッション等の市の行事の他に、老人ホーム等で例年十回ほどの活動を行っているそうです。これからはかわいい少女三人が揃った演技で一段と華やき、お客さんを楽しませてくださいましょう。

最後に、祐花さんに太鼓の目標について問うと「太鼓の譜面を正しく早く読めるようにすること。それと他の人と呼吸がぴったり合うように練習したいです」。これから何をしなければならぬか、はっきりした目標を持った祐花さんでした。

将来の目標については「大人になっても太鼓はずっと続けます。仕事は・・・人を助ける看護師さんになりたいです」と明解な返答。太鼓を通して大きく羽ばたく祐花さんの夢の実現を願っています。





陶芸に活かされて 榮 一男さん（62歳）（上藤沢）  
かがやく瞳に想いをよせて



▼作品「飛躍」

小学校の絵画室で、榮さん・お弟子さん・ボランティアの方々が子ども達のために、授業の準備で忙しくしています。

そこに子ども達が入って来ました。榮さんの説明を受けた後、早速子ども達は製作に入ります。

机の周りで、ボランティアの人達は手分けして、熱心に子ども達の手助けをしています。

榮さんは突然の脳梗塞により、右半身に麻痺が残っています。しかし不自由さは感じられません。「絶望感に陥るのですが、陶芸をやっていた事により救われた」と話してくれました。

陶芸を始めて四十年余り、現役時代から関わり、退職後も公民館や地域の小学校と交流が続き、現在に至っています。

榮さんは、子ども達と団塊の世代の人達との交流の場を作りたいと思っています。

「子ども達は今とても忙しい。好むと好まざるとに関わらず、自分が見えなくなってしまうっている様に思う。創作することで、想像力が豊かになり、達成感を味わい、逞しく物事に挑戦することで自信に繋がる。今でなくては出来ない事に気付いて欲しい」と話していました。榮さんの熱い想いが、静かな話し方の中から伝わってきました。

また、子ども達を通してPTAと交流を持ち、親子の心の仲立ちの手助けになれば、という考えの元で保護者にも教えているとのこと。

世間でよく言われる、芸術家の気難しさ、というのは感じられず、お話し好きな榮さんでした。

陶芸で生涯現役を目指して、人間の子も達のみならず、多くの人に創る喜びを教えてください。



▶教わる真剣な顔顔



「工房モリタ」主宰 森田 旭さん（豊岡）  
ものづくりを通して拡がる人の輪

オカリ

ナ製作・手打そば・手打ちうどん・木工芸品・三味線・尺八・イベント看板製作・各種書類作成など、全て独学で得たもの。これらの制作と指導に携わる「工房モリタ」の代表森田旭さん（70歳）。

「お金が無いなら無いなりに、人に頼らず他に依存せず、やって出来ない事はない。自分を信じ、自分自身の可能性に挑戦しています」。

二〇〇四年、定年退職と同時に自宅横のスペースに工房の建物を作り上げました。配線・電気工事・下水道工事以外は全て自分の手で。それにトイレ迄も。

当初の目的は、人の役に立つボランティア活動のたまり場・教室であり、自分の出来る事を全て投入する拠点として立ち上げたそうです。

彼の作品の一つ「オカリナ」は、ハイキングの会で山歩きをしていた時、山の頂上で誰かが奏でていた美しい音色に感動を覚え、その魅力に惹かれてオカリナサークル「コンドル」に入会し、その中で陶芸をやっていた人と出会い、いい音色を出す為の製作に取り組み、試行錯誤の末



▲オカリナサークル発表の場で演奏する森田さん



▲上部は自身で製作したオカリナの实物

▲自身で作り上げた工房でオカリナづくりに燃える森田さん

作り上げたもの。

このパワーはどこから出て来るのでしょうか？「多分、幼い頃の家庭の貧しさからでしょう。ハングリーの精神です。人の出来る事が自分に出来ない事は無い。同じ人間だから・・・」。森田さんのこの前向きな生き方は「工房モリタ」を礎に、地域活動へと拡がっていきます。今は様々な団体の責任者として、日夜多忙を極めています。

森田さんの居る所には、オカリナは勿論の事、必ず自分で製作した看板などがあるのです。

森田さんは、体験学習を通して、人間の可能性に挑む旺盛な学習意欲に燃えた人です。



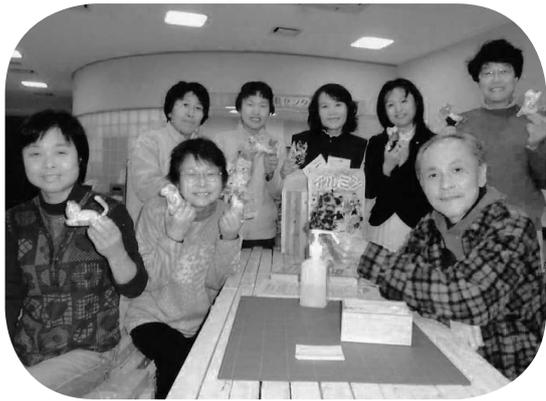
「いるまねこの会」会長 當摩達朗さん（春日町）  
地域と共に・・・地域の猫へ

猫」をご存知ですか。「地域猫」とは、不妊・去勢手術をした上で、周辺美化に配慮し、餌やり・糞尿の清掃等の飼育管理を行い、周辺住民の理解を得られた猫のことです。

當摩さんが猫に興味をもったきっかけは、野良猫にパンを与えていた子ども達の姿を見てからのこと。当時市内でも野良猫の糞尿による苦情を耳にすることがあり、迷惑な野良猫による被害をいかに少なくできるかと考えていました。

そこで當摩さんたち有志で設立されたのが「いるまねこの会」です。「ねこの会」は他市にもありますが、自分で活動しています。

▼スタッフの皆さん



皆さん「地域

▼イベント出店風景

（里親さがしも活動の一つ）



▼地域猫になる前の状況



▼三種ある手づくりグッズの一つ

「にゃんこクリップ」

活動資金は、会の活動に賛同する方からの寄付をはじめとし、イベントなどに手づくりグッズや軽食などを販売して充てています。當摩さんは「地域猫に関しては、行政・地域住民・ボランティア間の協力関係が不可欠だ」と言っています。當摩さんの話から特に感じられたことは「自立の精神」です。何ごとにもこだわらない性格で、積極的に物事に取り組む姿勢が伝わってきました。人と動物との調和のとれた町づくりを情熱を燃やす、當摩さんとスタッフの活躍をこれからも期待します。

川とともに



霞川のアマチュアカメラマン 山崎祐三さん（高倉）  
カワセミの美しさに魅せられて

入間市の中央を流れる霞川は、春には桜が咲き誇り、夏は川面が涼しさ呼び、秋の紅葉、そして冬には水鳥が来て、それぞれの風情を楽しませてくれる。

この素晴らしい川の土手を毎日散歩している人は少なくない。定年退職をして時間にゆとりが出来た山崎祐三さん（69歳）も、またその中の一人です。ある日のこと、山崎さんは望遠レンズ付カメラで川面を撮っている人に遭遇しました。「何を撮っているんですか？」

「カワセミ・・・」  
体長十七cmくらい（口ばし七cm）の川のとぶ宝石と言われる「カワセミ」は、彩りも鮮やか。見せてもらった写真に感動した山崎さんは、写真を撮る準備を着々と始め、気がついた時には、毎日のように川辺に通うようになっていました。

\*留鳥で縄張り性の強いカワセミは、一定の休息所と採食場があり、五百mくらいの縄張りの中を移動するそうです。どこからともなく集まって来た写真仲間たちは、カワセミが自分の前に採食の

ため戻って来るまでじつと待ちます。

レンズの中でカワセミを捕らえると、一斉にシャツターを切り始めます。余程の悪天候か、用事がある時以外は、朝から弁当持参で毎日通っているとのこと。

一日に五百〜六百枚くらい撮っても満足の得られる写真が無いから、「明日こそは・・・明日こそは・・・」と撮り続けているのだそうです。自分と同じ趣味を持つ仲間たちとコミュニケーションをとりながら、生き生きとしている山崎さんです。今日も元気に、霞川のほとりで、カメラを川面に向けているでしょう。



▲美しいカワセミ

▼カワセミの親子



▶霞川は憩いの場

\*留鳥 一年中だいたい同じ場所に留まっている鳥



ウオーキングが昂じて  
中曽根正道さん(64歳)(金子)

最近、ウオー

キングする方を多く目にしますが、古道に的を絞って歩き続けている中曽根正道さんをご紹介します。

歩き始めるきっかけは、退職でした。健康維持のため、また歴史好きだったということから古道を歩き始めたとのこと。

古道への興味を抱いたのは、毛呂山町歴史民族資料館に何気なく立ち寄り、この館発行である「鎌倉街道」を手にした時からだそうです。中世の古道に対する想いが沸々と心に湧き出し、調べていくうちに古道が通っていたと想定される道を知りました。

まず現在の地図に、ルートを置き換える事から始め、史跡の所在地や説明等を調べてから、現地を歩きました。歩いた道は本に紹介されている道です。



▲興味深々 出発！

古道を歩く 歴史をたどりつつ

▼間違えたかな？



一日に十五km〜二十kmの距離が目安です。交通の便を考慮して朝九時頃出発し、午後四時頃に最寄の駅に着くという予定で計画。道を途中で間違えたり、史跡に立ち寄り時間を忘れてたりすることもあり、思い通りにはならない様でした。

二〇〇七年四月から二〇〇八年三月までのあいだに、鎌倉から高崎までの一四〇kmを歩きました。

中曽根さんが歩いた古道は、鎌倉街道の「上道」といわれる道です。関東地域には他に中道・下道・山道等があります。他の古道も数限りなくありますが「これからも歴史の木漏れ日の中を歩き続けたい」と中曽根さんは話してくれました。



◎ 本誌「かがやく」編集委員大募集！

生涯学習やまちづくり活動、編集活動に興味のある方で、ボランティアとして活動していただける方ならどなたでもOK。年齢・経験は問いません

活動日：原則月2回(水曜午前)  
活動場所：市役所(会議)、市内(取材)  
活動内容：

- ①取材対象の情報収集
- ②取材及び企画編集作業
- ③冊子の配布に関する作業
- ④生涯学習フェスティバルへの参加

◎ 「いるま学びの場」生涯学習サークル・教室情報募集！

「何か始めたいなあ」とお考えの方、「アレ習いたいけど、何処に行けばいいんだろう」とお嘆きの方。市では、公民館等の公共施設で活動しているサークルやお近くにある教室の情報を取りまとめ、冊子や市公式ホームページから情報を提供しています。

そこで、下記に該当するサークル・教室の情報を募集しています。

対象

- ☆生涯学習に関わっていること。
- ☆入間市内に活動場所があること。
- ☆一般市民が参加できること。
- ☆年間を通じて継続的に活動していること。
- ☆特定の政治・宗教・悪質な商法等に関わっていないこと。

※冊子発行は市教育委員会と入間市生涯学習をすすめる市民の会で行っています。

このコーナーに関するお問合せは入間市生涯学習課(下記)へお寄せ下さい

● 編集後記 ●

◎「地域のため」「人のため」「自分のため」に努力を続ける人々の、感動人生を今後も紹介していきたいと思えます。(K)

◎生涯学習活動は、脳の活性化と共に、心いっぱい幸せも体感させてくれました。多くの方から支えられている安心感もいただきました。(SM)

◎将来の目標に向かい生涯学習を、早い時点で決めた人、定年からの人、積み上げた確かな努力が実るには時間がかかります。生き生きと過ごすことの大切さを感じます。(SI)

◎「人生夢ありき」と言います。学びの世界に後退はありません。集中心によってモチベーションを高め、何事にも前向きに挑みたい。(N)

◎子ども達の未来は、宇宙が無限であるように、あらゆる可能性を秘めています。その一人一人の個性を引き出す事が出来たらすばらしいです。(H)

◎芸は身を助けるのではないけれど、信じる物に出会う時、人は何倍にも力を発揮する事が出来るのです。今回まさに実感できました。(M)

◎「かがやく」の編集に携わってから九二年が経過。そして取材でお会いした方々との偶然の出会いにも感動と喜びを感じ日々です。(Y)



企画編集：「かがやく」編集委員会  
発行：入間市教育委員会生涯学習課

お問い合わせ  
連絡先

入間市教育委員会生涯学習課  
〒358-8511 入間市豊岡 1-16-1  
TEL 04-2964-1111(内線4123) FAX 04-2964-4841

